



農業の今...

農業は、人が生きるために必要な食料を供給する重要な役割がありますが、そのほかにも、自然環境の保全、文化の継承など様々なはたらきをしています。

しかし、都市化、高齢化の進行により、農家戸数は年々減少しています。松前町の農家戸数も減少傾向が続いていて、現在、農家戸数は1,201戸、経営耕地面積は950haです。

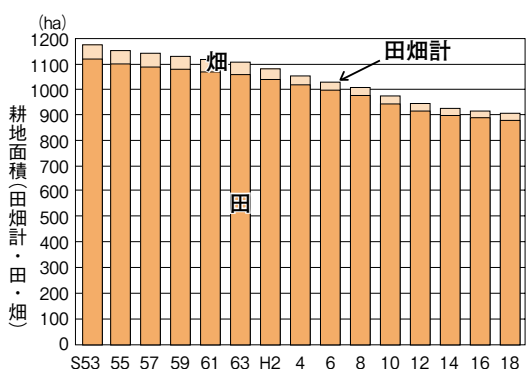
農家戸数の動向及び見通し

(単位：戸)

	総戸数	専業別内訳			経営耕地規模別内訳					
		専業	第1種兼業	第2種兼業	0.5ha未満	0.5~1.0ha	1.0~1.5ha	1.5~2.0ha	2.0~3.0ha	3.0ha以上
7年	964	182	186	596	261	424	193	56	22	8
12年	884	188	117	579	229	397	172	52	22	12
17年	794	220	87	487	212	344	162	43	17	8
22年見通し	635	176	70	389						
27年見通し	508	140	56	312						

- (注) 1 資料：農林業センサス
 2 販売農家のみを集計です。
 3 担い手へ農地の利用権設定を図るため、2割減で推移すると推計しています。

耕地面積の動向 (昭和53年~平成18年)



「担い手」に関する状況

		20年3月現在	目標 (24年)	備考
農家数 (A)		1,201戸	1,081戸	1割減
担い手農家等戸数 (B)		52戸	79戸	
認定農業者	法人経営体数	6経営体	9経営体	5割増
	家族経営体数	44戸	66戸	5割増
認定志向農家		1戸	2戸	5割増
集落営農組織		1組織	2組織	5割増
割合 (B)/(A)		4.3%	7.3%	

松前町の特徴

経営耕地面積950haの内訳は、田901ha、畑46ha、樹園地3haで、農家1戸当たりの平均経営耕地面積は79aと小規模です。

農業者の内訳は、専業農家21%、第1種兼業農家8%、第2種兼業農家46%、自給的農家25%となっています。(2005農林業センサスより)

一方地理的に、松山に隣接していることから、農家・非農家の混住が進み、農業後継者の他産業への就業も多くなっています。そのため、兼業化の傾向が強く、新たな農業への意欲のある「担い手」の育成・確保が求められています。

食料自給率

高度成長期を機に、農作物の輸入が増え、現在日本は世界最大の農作物輸入国となっています。

今、日本の食料自給率は40%にまで落ち込んでいます。昭和40年には73%もあったことを考えれば、その差は歴然です。

こうした現実を知ると、食料自給率低下への不安を感じずにはいられません。消費者には購買力があります。意識を変え、行動を変えてみましょう。私たちの毎日の食生活で、農地・農業を守ることになります。



地産地消コーナー「ぢばさ〜んまさき」
(エミフルMASAKI内)

(注)
 第1種兼業農家：農業収入を主とする農家
 第2種兼業農家：会社員、自営業など、農業以外の収入を主とする農家
 自給的農家：市場に出荷せず、自分たちで消費する農家